

米倉教公の月間為替市場見通し

9月号

ドル/円予想レンジ 95.00 - 105.00 円

『日米の金融政策会合が焦点に！』

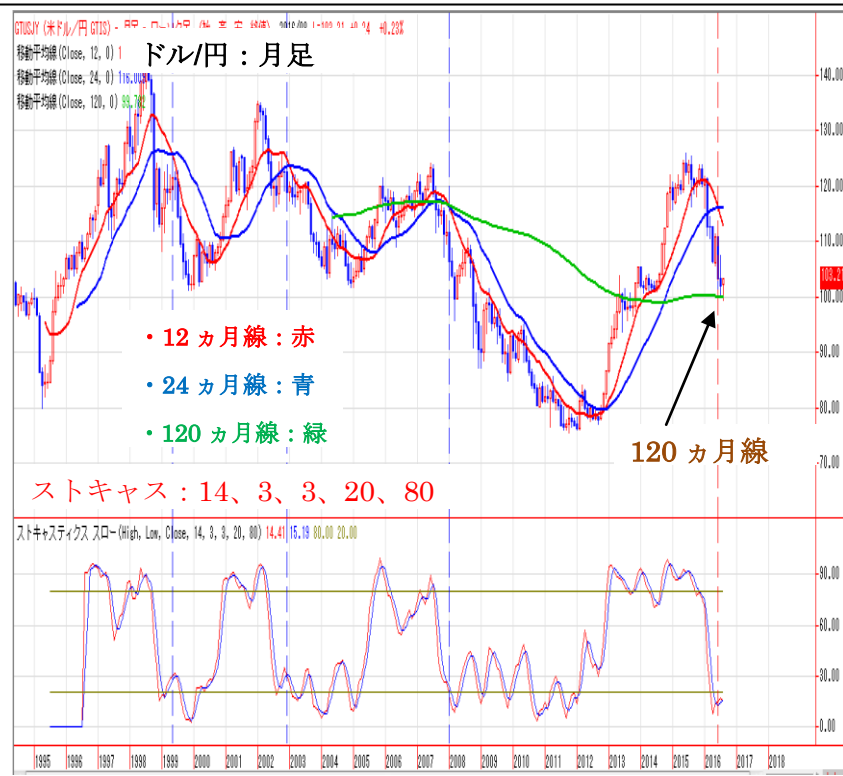
ドル/円の9月勝敗表

9月の相場	始値	終値	値幅	変動率	陽線・陰線
1995年	97.38	99.85	2.47	2.54%	陽線
1996年	108.8	111.33	2.53	2.33%	陽線
1997年	121.1	120.43	-0.67	0.55%	陰線
1998年	139.15	136.5	-2.65	1.90%	陰線
1999年	109.62	106.34	-3.28	2.99%	陰線
2000年	106.66	108.06	1.4	1.31%	陽線
2001年	119.08	119.53	0.45	0.38%	陽線
2002年	118.46	121.61	3.15	2.66%	陽線
2003年	116.76	111.45	-5.31	4.55%	陰線
2004年	109.09	110.04	0.95	0.87%	陽線
2005年	110.63	113.98	3.35	3.03%	陽線
2006年	117.41	117.94	0.53	0.45%	陽線
2007年	115.68	114.75	-0.93	0.80%	陰線
2008年	108.39	106.15	-2.24	2.07%	陰線
2009年	93.1	89.72	-3.38	3.63%	陰線
2010年	84.24	83.52	-0.72	0.85%	陰線
2011年	76.64	76.99	0.35	0.46%	陽線
2012年	78.33	77.89	-0.44	0.56%	陰線
2013年	98.42	98.2	-0.22	0.22%	陰線
2014年	104.17	109.63	5.46	5.24%	陽線
2015年	121.22	119.89	-1.33	1.10%	陰線
平均			-0.03	1.83%	10勝11敗

★9月は日米金融政策で変動幅が高まる可能性

1995年以降の過去21年間のドル/円では、10勝11敗と始値から終値で陰線なることが僅かに多くなっている。一方、値幅での平均値は3銭の円高となっている。値幅の平均は小さいように見えるが、変動率は始値から上下に1.83%の値動きとなっている。陰線は連続しやすいが、15年は陰線だった。9月は20-21日に日米の金融政策決定会合が予定されており、日本では追加緩和期待、米国では追加利上げ期待の思惑でドル/円のボラティリティが高まる可能性が高い。8月30日から9月22日まで水星逆行期間となる。この期間トレンドが出難いにも関わらず、変動幅が大きくなる可能性が高い。この期間は利食いは早目にとわれている。

※この勝敗表は単純に終値から始値を引いた数値となっている。また陽線を勝ち、陰線が負けとした。



★ドル/円月足では円高基調が継続中

月足チャートでは、16年6月に12ヶ月線と24ヶ月線がデットクロスした。1995年以降3回のデットクロスがあり、今年の6月に4回目のデットクロスとなった。現在は120ヶ月線の99.782円が下値支持ランとなっている。ストキャスティクス・スローは過去3回とも売られ過ぎ域の近くからもう一段の下落となっている。今回もかなり売られ過ぎの域から、やや戻り基調となっているところでのデットクロスとなった。過去の経験則からは、ここからもう一段の下落基調になる可能性が高いことである。また、デットクロスしたばかりなので、いつ円高基調にもどっても不思議ではない。9月は日米の金融政策会合が20-21日に開催予定となっているが、その前後が再び円高基調に戻る可能性もある。また、120ヶ月の下値支持ランを下回るかも重要ポイントとなる。

★まとめコメント

9月は日米金融政策会合が節目となる。米国の追加利上げに関しては、9月に利上げして米国株などがクラッシュした後に、11月に大統領選挙となることはFRBとしても避けるものと思われる。そのため、米国の利上げは少なくとも12月までは見送られる。日銀政策決定会合では、追加緩和期待が膨らんでいるが、緩和手段は限られてきており実際に追加緩和が実施されても材料出尽くしとなりやすい。また、9月22日まで水星逆行が続き、ボラティリティの高い荒い相場となりやすい。テクニカル的には、長期トレンドが下落基調に入っていることから、過去の経験則からも円高基調が強まる可能性もある。

○9月の主なイベント

- ・9月01日：中国8月製造業・非製造業PMI、中国7月財新メディア製造業PMI、米8月ISM製造業景況指数、ブラジル中銀政策金利公表
- ・9月02日：日露首脳会談、米8月雇用統計&米7月貿易収支
- ・9月04日：G20首脳会議（中国杭州、5日まで）
- ・9月05日：中国8月財新メディア非製造業PMI、NY市場休場（レイバーデー）
- ・9月06日：RBA理事会、ユーロ圏第2四半期GDP・改定値、米8月ISM非製造業景況指数
- ・9月07日：豪第2四半期GDP、カナダ中銀政策金利公表
- ・9月08日：中国8月貿易収支、ECB理事会
- ・9月09日：日経平均メジャーSQ、中国8月消費者・生産者物価指数、トルコ第2四半期GDP
- ・9月13日：中国8月鉱工業生産・小売売上高・固定資産投資
- ・9月14日：英MPC、英7月雇用統計、アストロ=NYダウ変化日（15日まで）
- ・9月15日：中国市場休場（中秋節）、NZ第2四半期GDP、スイス中銀政策金利公表、英MPC&議事録公表、米8月小売売上高、米第2四半期国際収支、アストロ=為替変化日
- ・9月16日：米株メジャーSQ、アストロ=日経平均変化日（19日まで）
- ・9月17日：アストロ（満月）
- ・9月21日：日銀金融政策決定会合結果公表、米FOMC
- ・9月22日：NZ中銀政策金利公表、南ア中銀政策金利公表、アストロ（水星の逆行終了）
- ・9月26日：日本臨時国会召集、米大統領候補・TV討論会
- ・9月27日：日本株9月決算企業権利落ち
- ・9月29日：米第2四半期GDP・確定値、
- ・9月30日：本邦中間決算末、英第2四半期GDP・確定値

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。